

学 校 教 育 目 標	かしこく（知） やさしく（徳） たくましく（体）
目 指 す 学 校 像	○学ぶ喜びのある、生き生きとした学校 ○あいさつが響き合う、安心・安全な学校 ○家庭や地域と心が通い合う学校

重 点 目 標	1 【学びの質の向上に関する取組】 2 【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 3 【地域とともにある学校づくりに関する取組】 4 【教育環境の整備に関する取組】 5 【教職員のキャリア形成に関する取組】	子どもが学ぶ喜びを感じ、自信をもって学び続ける力の育成 生徒指導・教育相談・特別支援が連携した、すべての子どもを支える体制の確立 家庭・地域とともに子どもを育てる学校づくりと信頼関係の構築 安全・衛生的な学習環境の整備 業務改善と研修の充実による、教職員が学び続ける職場環境の実現
---------	--	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番 号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	【学びの質の向上に関する取組】 ○全国・市の学習状況調査では概ね満足できる結果を維持しているが、「学習が分かる・楽しい」と実感している児童は62%（R7）にとどまり、学力と実感の間に差がある。 ○一人ひとりの学びの状況を丁寧に把握し、つまずきに早く気づき、学校全体で支援を継続することが必要である。 ○子どもの学びの様子を保護者と共有し、学校と家庭が同じ方向で子どもを支える関係づくりが課題である。	「分かった・できた」を実感できる授業づくり	○全学級で「課題→伝え合い→振り返り」の授業を毎時間実践し、タブレットで学びの変化を記録する ○担任は毎週子どもの状況を確認し、気になる子どもに声をかけ、学年全体で支援を共有する。	○学校評価アンケート「学習」 児童の「そう思う」67%以上（R7：62%） ○気になる児童への支援を学年全体で継続して行っているか（6月・10月・12月末に確認）				
		家庭とともに子どもの学びを支える取組の充実	○個人面談（6月・12月）で子どもの成長を伝え、家庭での関わり方を一緒に考える。 ○学年だよりで家庭学習の取り組み方を伝え、学校だよりで子どもの学びの姿を届ける。	○学校評価アンケート「学習」 保護者の肯定的回答92%以上（R7：86%）				
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 ○いじめの重大事態は発生せず、いじめ防止に関する保護者からの肯定的回答は91%（R7）と高い評価をいただいている。 ○「困ったときに相談できる」と感じている児童が80%（R7）にとどまっており、すべての子どもが安心して相談できる環境づくりが課題である。 ○支援が一部の教職員に集中しやすく、学校全体で継続的に関わる体制の強化が必要である。	学校全体で子ども一人ひとりを支える体制の充実	○毎月、生徒指導・教育相談・特別支援教育の三担当者が集まり、支援が必要な全児童の状況と方針を確認する。必要に応じて専門職、関係機関と連携して早期に対応する。	○学校評価アンケート「教育相談」 児童の肯定的回答85%以上（R7：80%） ○支援が必要な児童に、学期ごとに学校全体として継続的に関わることでできているか（12月末確認）				
		保護者と連携し「気軽に相談できる学校」づくりの推進	○支援が必要な子どもの保護者には、学期ごとに支援の内容をお伝えする。相談の窓口を学校だよりで周知し、保護者からのご相談をいつでも歓迎する。	○保護者への支援内容の説明を学期1回以上実施できているか。 ○保護者が相談しやすい環境づくりができているか（学校評価アンケートの結果をもとに確認・12月末）				
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 ○あいさつについて子どもたちの91%が肯定的に評価しているが、保護者は78%（R7）にとどまっており、家庭・地域と運動したあいさつ文化の定着が課題である。 ○学校からの情報発信について保護者の肯定的回答が90%（R7）に達し、目標値に到達した。 ○学校運営協議会（CS）の委員の方々が授業を参観したり子どもたちと交流したりする機会がまだ少なく、学校と地域がともに子どもを育てる関係をさらに深めることが必要である。	あいさつの日常化と情報発信の充実による家庭・地域との信頼づくり	○児童会が「あいさつ運動」を実施し、全学年で日常的なあいさつ指導を継続するとともに、家庭・地域へのご協力をお願いする。 ○学校だより・学年だよりを月1回発行し、スクリレ・学校安心メールで連絡事項を正確かつ迅速に届ける。	○学校評価アンケート「あいさつ」 児童90%以上（R7：86%）、保護者85%以上（R7：78%） ○学校評価アンケート「情報公開」 保護者の肯定的回答92%以上（R7：90%）				
		学校運営協議会（CS）を通じた地域との連携強化	○CS委員が参加する授業参観を各学年・各学期で計画し、参観後に意見交換の場を設ける。 ○年1回（11月）、子どもたちがCS委員にアイデアを発表し、提案を翌年度の学校経営に反映させる。	○CS委員への授業公開を各学年で学期1回以上実施し、参観後に意見交換の場を設けられたか（12月末確認） ○子どもたちがCS委員にアイデアを発表する場を年1回以上設けられたか（12月末確認）				
4	【教育環境の整備に関する取組】 ○安全点検を継続し、保護者の「校内美化・学校安全」に関する肯定的回答は96%（R7）と高い評価をいただいている。 ○開校53年目を迎え老朽化が進む中、安全への意識を継続して高めることが必要である。 ○子どもたちが主体的に清掃に取り組む姿のさらなる育成が課題である。	日常点検・清掃・避難訓練の確実な実施による安全・衛生的な学習環境の維持	○「心を込めて、学校と自分の心を磨く」を合言葉に、清掃のねらいと手順を全児童に伝え、手順表を掲示する。 ○毎日の巡視・週1回の屋外点検・月1回の安全点検を継続し、危険箇所を早期に発見して速やかに対応する。 ○避難訓練を年2回、不審者対応訓練を年1回実施し、訓練後の課題を全教職員で共有する。	○学校評価アンケート「校内美化・学校安全」 児童の「そう思う」73%以上（R7：69%） ○施設・設備の点検を継続し、危険箇所への迅速な対応ができているか ○避難訓練を年2回・不審者対応訓練を年1回実施し、課題共有と次回への反映ができているか（12月末確認）				
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 ○様々な経験年数の教職員が学び合う研修の場を年間8回以上設け、子どもへの指導・支援の質を高める取組を継続してきた。 ○「教職員の働き方」に関する肯定的回答は86%（R7）であるが、時間外在校時間は月平均30時間47分（R7）であり、業務改善のさらなる推進が必要である。 ○教職員が心身ともに健康でゆとりをもって子どもと向き合える環境づくりが課題である。	業務改善による時間外在校時間の削減と働きやすい職場環境の実現	○毎月、時間外在校時間を把握し、負担が集中している教職員への業務調整を速やかに行う。 ○「無くす・減らす・変える」の視点で会議・書類・校務を見直し、子どもと向き合う時間を確保する。	○学校評価アンケート「教職員の働き方」 肯定的回答88%以上（R7：86%） ○時間外在校時間 月平均30時間以内（R7：30時間47分） ○教職員への業務調整を翌月末までに行っているか（12月末確認）				
		研修の充実による教職員の指導力向上と学び続ける職場づくり	○学期に1回、教職員一人ひとりと管理職が面談を行い、業務上の悩みや健康状態を把握して対応する。ストレスチェックの結果をもとに職場環境の改善を継続する。 ○SC・SSWを講師に招いた事例検討研修を学期1回実施し、子どもへの対応力を全教職員で高める。	○教職員が安心して働ける職場環境が維持されているか（ストレスチェックの結果をもとに確認・12月末） ○事例検討研修を学期1回実施できたか（12月末確認）				